

## 2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 追手門学院大手前中学校 ] 担当教諭名 [ 折口 早希 ] ( 2年3組 26名 )

相手国・地域 [ ロシア ]

海外学校名 [ Moscow State School 1471 ] 担当教諭名 [ Anna Kostikova ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語	テーマ学習、英語でのコミュニケーション	20
	社会	ロシアの地理・歴史の概要	1
	家庭	調理実習(ビーフストロガノフ)	2
	放課後	壁画作成	5

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Similarities of Each Culture (文化の共通点)
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	一見、共通点はあまりないように思える日本とロシアの間にもきっと共通点やつながりがあり、それを見つけて1枚の絵に表現することで、互いの国を好きになり、親しみを感じられるようになりたい。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を「コミュニケーションの道具」として捉え、間違いを恐れずに使用できるようになった。</li> <li>・文化や価値観の違いを受け入れて、互いを尊重する姿勢や相手の立場に立つ視点が養われた。</li> <li>・日本の文化を絵で表現したことによって、日本人としての自覚・誇りを持てるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムのやり取りが活発にできず、質問をしたり議論をしたりするという双方向の関わりが浅くなった。</li> <li>・相手国の新年度開きが予定より遅く、参加メンバーが確定したのが9月中旬だったため、スタートが遅れ、自己紹介やテーマ学習に時間をとることができなかった。</li> </ul>

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
最初はロシアについて知らないことが多く、共通点などあまりないと思っていた。しかし、学習を進める中で、歴史の中で深い関わりがあったことや、言葉や文化など日常生活のなかにお互いの文化が入り込んでいることなどを発見した。多くの生徒がロシアに親しみを感じるようになった。	ロシアと聞いたときにまず浮かんだのが領土問題についてだったが、それは自身のネガティブな価値観から来ていたもので、生徒が交流を深める様子を見ると、政治的な問題と個人の関わりは別物であるということを教師自身が改めて気づかされた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
導入	6月	・オリエンテーション ・リーダー(生徒)と話し合いをし、一年間の活動を計画する ・英語での自己紹介の練習	活動に対してとてもわくわくしており、「こんなことをしてみたい!」と積極的な声が多く上がった。	英語2
情報収集	8月 9月	・夏休みの課題として、ロシアについて文化・歴史・日本との関わりなど好きなテーマについて調べ、夏休み明けの授業で発表	自分の興味のあることについて深く調べられており、他の発表もしっかり聞けていた。	英語2
出会い	9月 10月	・自己紹介カードを送る ・Forumでのあいさつ ・Skypeで自己紹介およびハロウインの文化を伝え合う	英語での自己表現には苦戦していたが、相手から反応があった時には生き活きと返信を書こうとしていた。	英語8
共有	11月	・グループごとにテーマ学習をし、Forumで共有	文化に理解・関心を深めて、多くのことを発見できていた。	社会1 英語4
融合・創造	12月	・上旬で下絵を作成、下旬で色つけ ・日本の年末年始の行事などについて調べてForumで共有 ・クリスマスカード・年賀状交換	送ってもらったクリスマスプレゼントにとっても喜んでいて、異文化の人に対して日本文化を伝える工夫をしていた。	英語4 放課後5
文化体験・評価	3月	・調理実習にてロシアの伝統料理を体験 ・作品鑑賞、全校生徒の前で発表	楽しく活動に参加していたが、相手からの反応が減ったのでモチベーションは低下していた様子。	家庭2 (全校集会1)

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	お正月・節分の意味など、今まで深く考えることがなかった独自の文化について改めて考え、深く学ぶことができた。
異文化の理解	A	5	「ロシアに行ってみたい」「ロシアの行事を体験したい」という声が多くあがった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	4	英語力が足りない生徒がほとんどだったが、それでも次年度の4月以降も交流を続けたいと思う生徒もみられた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	C	4	インターネットや書物を上手く活用して調べ学習ができた。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	3	ペアリングを行ってやりとりをしたことで、自分のパートナーに特別な親しみを持っていた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	3	グループによって差はあるものの、メンバーで協力して調べ学習・発表をしようという姿勢がみられた。
学習を追究する意欲	C	4	深く調べ学習をでき、与えられたテーマ以外のことも自分たちで調べる生徒がいた。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	B	2	絵の内容をよく理解していた。自分たちのことを相手に伝えたいという気持ちはあるものの、伝え方の工夫が十分ではなかった。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	C	2	壁画が届いたのが終業式の前日だったので、時間がとれなかったが、全校集会で発表できたので活動に対する自信が持てた。